

4-(1)-⑱ 教育力向上の取り組みの概要

令和2年度は、教務委員会とFD委員会が連携しながらのルーブリック研修、学生FD委員の任命や意見交換会、新任教員のための授業ガイドの改定など、その全ては3つのポリシー（アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシー）の推進のために実施された。ルーブリックに関する研修では、参加者により講義授業のルーブリック作成が行われ、各授業における問題点だけではなく評価軸の設定などが認識された。また学生FDとの意見交換会ではオンライン授業に対するさまざまな意見が寄せられた。否定的な一面だけではなく好意的な意見も寄せられ、学生の多様な考えを確認することができた。これら研修会および学生FDとの意見交換会に関しては報告書を作成し、全学で共有する予定である。

他大学との連携では既述の学生FDの意見が山形大学での大学コンソーシアムやまがたFD研修会「オンライン授業の更なる質の向上を目指して」における報告の中で活用された。またルーブリックに関する知見を得るため他大学のルーブリック研修会に参加した。

今後はルーブリック導入に向けて講義授業だけではなく演習授業での活用を視野に入れ、芸工大の特性を活かしたルーブリック構築のために研修を行う。また多様な学生が高度な知識と技能を得る授業構築のために、さらには昨年度から実施されているオンライン授業の活用のためにも学生との意見交換などを重点的に取り組んでいく。

区分	機能
第1回 学内研修会	<p>「誰の何のための教学マネジメントか」 令和2年9月29日、教職員100名</p> <p>「教学マネジメント指針」をまとめた文部科学省中央教育審議会大学分科会教学マネジメント特別委員会委員でもある大森昭生 共愛学園前橋国際大学学長を講師に迎え、「グランドデザイン答申と教学マネジメント指針について」「学修成果の可視化の視点と取り組み」などについて、全教員、および京都芸術大学の教員を交えて学んだ。参加者から多くの質問が出され、有意義な会であったとの感想が多数あった。</p>
第2回 学内研修会	<p>「山形大学の事例にみるルーブリック作成に際してのポイント」 令和2年12月16日、教職員60名</p> <p>山形大学橋爪准教授より、「山形大学の事例にみるルーブリック作成に際してのポイント、苦労する点、工夫など」と題して講演をいただき、その後、講義系科目におけるルーブリック作成のワークを実施。評価項目や達成基準など、ルーブリック作成の難しさを感じながらも、教員それぞれが、グループ毎の発表や意見交換など通じて、ルーブリック作成における多角的な学びが出来た。</p>
学生FD意見交換会	<p>「学生FD委員との意見交換」 令和2年12月18日、教員13名、学生16名</p> <p>学内各学科から学生FD委員を選出し授業に対する意見交換を行った。リモート授業における出席方法の統一、学期末に課題が重複することでの負</p>

	<p>担、異なる科目名で同じ内容の授業、テキストや教材を購入させて活用しない、取りたい授業の時間が重複して履修できない、学生委員たちから忌憚のない貴重な意見を収集することができた。ほとんどの教員は、自身が担当している講義以外の内容や形態の情報を持っておらず、シラバスだけの情報では分からない問題点 が浮き彫りになった。</p>
<p>授業改善アンケート</p>	<p>令和 2 年度「授業改善アンケート」を実施</p> <p>前期・後期それぞれに、開講した全科目について、受講学生による授業運営に関するアンケートを実施し、学内共有、担当教員へのフィードバック等授業改善と教育力向上にむけた FD 活動への展開などに活用した。</p>
<p>学修成果アンケート</p>	<p>令和 3 年 2 月「学修成果アンケート」を実施</p> <p>本学生の学習への意欲、学生としての意識、予習・復習状況等を把握し、教育内容や学習環境の改善にむけアンケートを実施した。</p> <p>調査は、本学生専用の学内学修 WEB サイトの回答システムを活用し、全学生の 52%から回答を得て、改善活動に活かしている。</p>